

早稲田大学大学院 総合研究機構
社会的養育研究所

2023 年度
乳幼児里親養育プログラムの
評価と開発に関する報告書

2024（令和 6）年 8 月



早稲田大学

目次

| | |
|-----------------------------------------------|----------|
| 目次 | 1 |
| 第1章 プロジェクトの概要 | 2 |
| 1. 背景・目的 | 2 |
| 2. 実施内容 | 2 |
| 3. 検討委員会 | 3 |
| 第2章 乳幼児里親養育支援モデルの実践..... | 4 |
| 1. 乳幼児里親支援モデルの実践 | 4 |
| 第3章 Watch Me Play!プログラム理解の促進..... | 6 |
| 1. Watch Me Play!開発者、ジェニファー・ウェイクリン博士の招聘 | 6 |
| 2. プログラムモデルについてのミーティング | 6 |

第1章 プロジェクトの概要

1. 背景・目的

我が国では、2016年児童福祉法改正以降、里親委託を増やすための施策が打ち出されるようになった。2020年度以降、特に乳幼児里親委託を促進することが各都道府県において喫緊の課題とされ、里親養育の支援やその質の向上が求められている。欧米諸国では、社会的養護のもとにいる子どもへの実証研究成果においては、できる限り早期に良好な家庭養育へ移行し、安定したアタッチメントを可能にする個別の関係を得ることが重要であることが明らかになっている。しかし、家庭養育への移行が全てを解決するわけではなく、個別の養育の質こそが子どもにとっては最重要であることも強調されている。

乳幼児のケアについては、衣食住を十分に保障し、安全な環境を用意するといったハード面においては、わが国の状況は優れた環境が用意されているといえる。しかしながら、社会的養護のもとにいる乳幼児は、人生早期に親からの分離や喪失を体験しており、なかには虐待やネグレクトなどの不適切な養育を体験した場合も少なくない。

だが我が国においては里親養育の現場では、このようなさまざまなリスクを抱えた乳幼児に対し具体的にどのような支援が必要なのかについての十分な知識が圧倒的に不足している。加えて、我が国ではそうした乳幼児里親養育に関する情報を包括的に得られる研修やプログラムはほとんどなく、参考にできる情報も乏しい。そのため、本プロジェクトでは、乳幼児里親に特化した知識を学べる研修講義と、実践に基づいた子どもの観察方法や家族支援を含めた、包括的なプログラムの開発をおこなうことを目的とする。

2. 実施内容

(1) 乳幼児里親支援プログラムの実践

これまでに作成した乳幼児里親支援プログラムをもとに、引き続き、フォスタリング機関において、研究協力者の募集、Watch Me Play!の実施、スーパービジョン、事後調査をおこなった。Watch Me Play!は、里親、養親家庭では週3回、1回20分、家庭訪問は月に2回のペースで行い、適宜スーパービジョンを行った。

また昨年度に問い合わせのあった児童養護施設において就学前の子どもへの支援として今回のプログラムを適応することについての関係者と検討するためのミーティングをおこなった。

(2) Watch Me Play! 開発者、ジェニファーウェイクリン博士の招聘

乳幼児里親支援プログラムでは、The Tavistock & Portman NHS で開発された社会的養護のもとにいる乳幼児を対象に開発された Watch Me Play! プログラムを実践として使用し

ているため、開発者であるジェニファーウェイクリン博士を日本に招聘し、講演会、日本のプログラムへの助言、実践者へのスーパービジョンやミーティングをおこなった。

(3) プログラムの評価の検討

プログラムによる乳幼児の発達の変化を捉えていくための、子どもへの侵襲性の低い生物学的指標としてアイトラッキングを使用するための課題の検討を昨年度に引き続きおこなった。特にWatch Me Play!プログラムでは、遊びを通じて養育者と子どもの関係性の変化などが起こりやすいことから、他者との相互交流における社会的認知能力に注目した課題を設定したパイロット調査の分析を行った。

(4) 乳幼児里親支援プログラムの研究希望者の説明

Watch Me Play!プログラムを含む乳幼児里親支援プログラムへの研究への問い合わせについて、適宜、質問への対応を行った。希望者にはWatch Me Play!プログラムのマニュアルを配布し、同時に研究協力を募った。

3. 検討委員会

社会的養護のもとにいる乳幼児を包括的に支援するプログラムを開発するために検討委員会を開催した。日本版の乳幼児里親研修に必要とされる内容の検討と実践方法などについて議論を行った。

(1) 体制

【構成員】(50音順、所属先は2024年3月時点)

- ・長田淳子氏 (二葉乳児院)
- ・引土達雄氏 (国立成育医療研究センターこころの診療部)

【研究所】

- ・上鹿渡和宏 早稲田大学社会的養育研究所 所長
- ・岩崎美奈子 早稲田大学社会的養育研究所 客員次席研究員
- ・御園生直美 早稲田大学社会的養育研究所 客員次席研究員

(2) 開催状況

プログラムの内容の開発と調査研究の検討のため2023年11月に、検討委員会を開催した。

第2章 乳幼児里親養育支援モデルの実践

1. 乳幼児里親養育支援モデルの実践

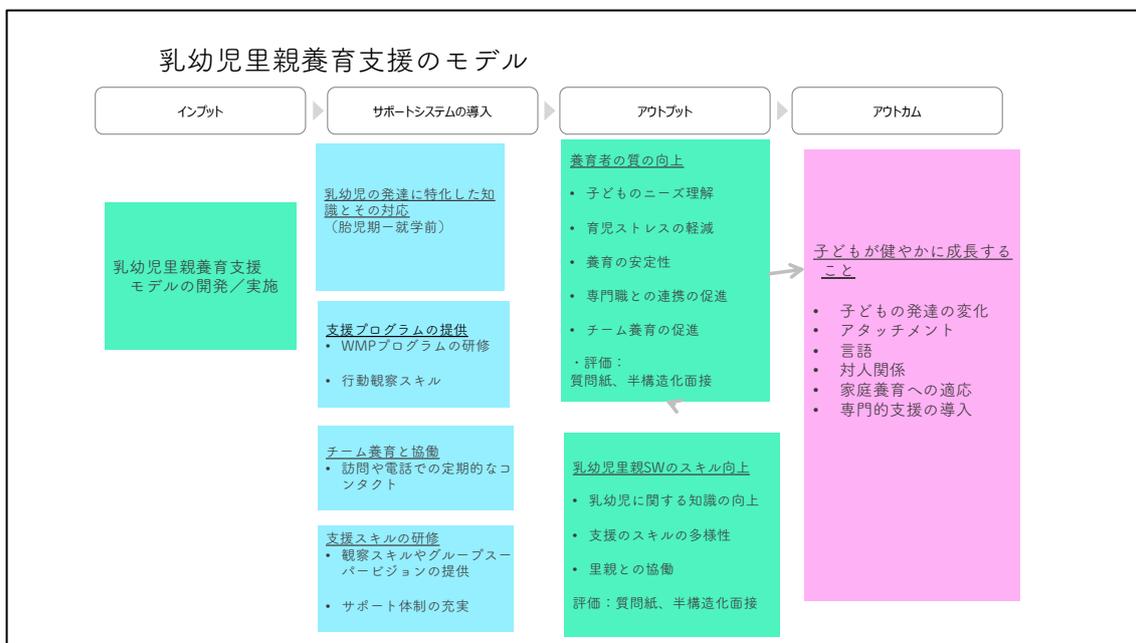


図1 乳幼児里親養育支援のモデル

(1) 乳幼児里親養育支援モデルの実施

上記のモデルに沿って、本年度も引き続き、支援プログラムを提供した。今年度は、昨年度の継続中の Watch Me Play! による実践をおこなった。内容は昨年同様に週3回1回20分の Watch Me Play! の実践、支援者は2週間に1回の訪問とした。今年度の訪問をおこなった支援者は、昨年度すでに Watch Me Play! のスーパービジョン等のトレーニングを全て終了していたために、スーパービジョンは適宜必要に応じて行われた。

全てのケースにおいて、養育者からの遊びの内容の報告と、支援者の記録、スーパービジョンの際のメモを記録した。現在のところ、研修を終了したものは12名となった。来年度も引き続き、研修を行う予定である。

(2) 乳幼児里親養育支援モデルの児童養護施設への応用

昨年度、児童養護施設でも今回の Watch Me Play! を含めた研修プログラムを受けたいという申し出がありミーティングをおこなった。具体的に実施に向けての計画として、児童養護施設での適応について検討をおこなった。

児童養護施設での実施に際しては、子どもの担当職員が子どもと Watch Me Play! を行うことが最も効果が高いことから、職員が一对一の時間を取る間に他の子どもたちの安全を

確保するためにその時間は他の職員を雇用すること、また子どもが落ち着いて遊びを行える安定した場所の設定といった、施設での枠組みについて検討した。加えて、おもちゃについても、自分だけの特別な時間として、継続した遊びが行えるように対象の子ども専用のおもちゃを準備することなどが確認された。

対象となる子どもをどのように決定するのかなどについても検討をおこなった。Watch Me Play!の実施に際しては、支援者は里親家庭への訪問で養育者への支援を行う構図になっているが、児童養護施設の場合には、同じ職場の同僚という立場になるため、そうした支援体制などについても議論をおこなった。実際の施設養育における上記の乳幼児里親養育支援モデルの応用の開始は来年度となる予定である。

第3章 Watch Me Play!プログラム理解の促進

1. Watch Me Play!開発者、ジェニファー・ウェイクリン博士の招聘

乳幼児里親支援プログラムでは、The Tavistock & Portman NHS で開発された Watch me Play!プログラムを実践として使用しているため、開発者であるジェニファーウェイクリン博士を日本に招聘し、専門家向けの講演会、日本版プログラムへの助言、実践者への事例検討を含めたミーティングがおこなわれた。

2. プログラムモデルについてのミーティング

ジェニファー・ウェイクリン博士の招聘に伴い、研究員がモデルについての検討のためのミーティングを行った。以下はプロジェクト研究員が参加し実践したミーティングや講演会の内容について記す。

| |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2023年11月10日 ミーティング（早稲田大学社会的養育研究所） |
| <ul style="list-style-type: none">● 日本の社会的養護に関する状況の説明● Watch Me Play!プログラムの実施状況の説明 |
| 2023年11月11日 ミーティング（早稲田大学社会的養育研究所） |
| <ul style="list-style-type: none">● Watch Me Play!の実践内容の報告● 日本版乳幼児里親支援プログラムに関する意見交換 |
| 2023年11月12日 ミーティング（早稲田大学） |
| <ul style="list-style-type: none">● 乳幼児里親養育研修プログラムの改善と今後の展開についてのミーティング● 早稲田大学にて専門家に向けた講演会の実施（13:30-16:30） 「社会的養護のもとにいる乳幼児の理解と支援：英国タビストックでの Watch Me Play!プログラムの紹介と実践」早稲田大学コマツ 100周年記念ホール |
| 2023年11月14日 事例検討 & ミーティング（二葉乳児院） |
| <ul style="list-style-type: none">● 二葉乳児院にて Watch Me Play!事例検討● Watch Me Play!の日本版についての意見交換 |

(1) ミーティングの内容

初回のミーティングでは、日本の社会的養護の状況の説明を行いながら、日本での乳幼児里親養育の現状、研究所のプロジェクトの説明などをおこなった。2回目のミーティングでは日本版の乳幼児里親支援のモデルと共に、現在の Watch Me Play! の導入の進捗状況や研究の概要について説明を行いながら、イギリスの状況についての現状について学んだ。イギリスでは、Watch Me Play! が対象とする家族や範囲が現在は社会的養護のみならず、より幅広く一般的なものになっていることや、障害を抱える家族への支援に使われている現状などについての説明を受けた。

日本版乳幼児里親支援モデルの中にある乳幼児の多くが乳児院にいる状況や、また乳児院のシステムから一対一の Watch Me Play! の時間を確保することの難しさなどについて議論が交わされた。ミーティングの最終日にはジェニファー・ウェイクリン博士からのフィードバックの内容をもとに、二葉乳児院への訪問をおこなって実践者から Watch Me Play! 事例報告とスーパービジョンを実施した。現時点では Watch Me Play! プログラムの実践は、主に里親、養子縁組家庭での実施がすすんでいることから、Watch Me Play! に関する課題や内容は英国と日本で大きな違いがないことが確認された。

今後の乳児院、児童養護施設など施設での実施については、英国では乳幼児を施設養育することがないために、完全に日本のオリジナルであるため、Watch Me Play! においてどのような点で注意をするべきか、また今後の継続にあたり養育者との関係性の質や子どもの環境の違いが現れてくるのかについて想定した話し合いが行われた。

(2) 専門家に向けた講演会

社会的養護のもとにいる乳幼児についてのニーズの理解と対応、Watch Me Play! プログラムの内容や英国での実践と研究についての講演を行った。

当日の参加申し込みは 98 名で、主な職種は児童養護施設、乳児院、児童相談所、フォスタリング機関の職員と児童福祉や心理学を学ぶ専門家や学生であった。(講演会で使用したパワーポイントについては資料 1、2 にて提示。)

その後のアンケートは、回収率は約 25% (回答数 25 名) であったが、その結果については以下に記す。

**社会的養護のもとにいる乳幼児の理解と支援：
英国タビストックでの
Watch Me Play! プログラムの
紹介と実践**

2023.11.12 [H] 13:30-16:30 (開場13:10)
東京会場 早稲田大学コマツ100周年記念ホール

講師：ジェニファー・ウェイクリン博士
(Dr. Jennifer Wakeley: The Tavistock and Portman NHS Foundation Trust 子ども・思春期心理療法士)
『児童養育における乳幼児の理解と支援：乳幼児観察から「ウォッチ・ミー・プレイ」の発展へ』著者

社会的養護のもとにいる乳幼児は、人生早期に虐待や養育者との分離、抱擁を体験しており、アタッチメントやトラウマの経験を抱えていることが多くあります。このような状況で、できる限り養育者に安定した養育を行うことが乳幼児に重要な役割です。

この取り組みは、英国の児童養育の現場として、Jennifer Wakeley 博士により実証と開発された Watch Me Play! (WMP) プログラムがあります。英語では、里親や養育者、児童養育施設で育てられた子どもだけでなく、児童養育施設子どもなど、広く支援を必要とする子どもたちにも使用されており、日本でも社会的養護の分野で使用されています。本セミナーでは、Jennifer Wakeley 博士をお招きして、社会的養護のもとにいる乳幼児の理解と支援について WMP の実践を通して考えます。

<スケジュール>
13:30-16:10 Jennifer Wakeley 博士によるレクチャー
16:10-16:30 質疑応答
参加費は無料です。

<会場>
早稲田大学ササノメホール100周年記念ホール
121 号館1F コマツ100周年記念ホール
〒162-8681 東京都練馬区早稲田4-1-13

<対象>
社会的養護に関わる実務者・研究者・学生、またはこの分野に関心のある方

参加費：無料

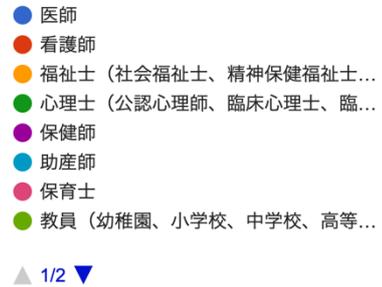
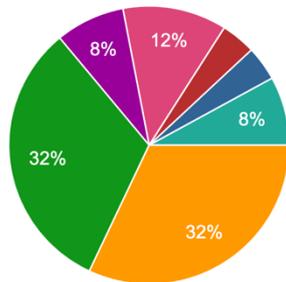
参加申込：右のグループフォームより、事前のお申し込みをお願いします。
※グループフォームでの返信が難しい場合、[住所・ご連絡先]欄に「ご返信先」を明記の上、waseda.nico@gmail.comまで、メールでお申し込みください。
※参加申込締切：2023年11月7日(火)午前10:00まで

WASEDA University 早稲田大学 料 研 費 Supported by 日本 THE NIPPON FOUNDATION Watch Me Play!

早稲田大学 社会的養育研究所

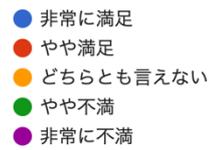
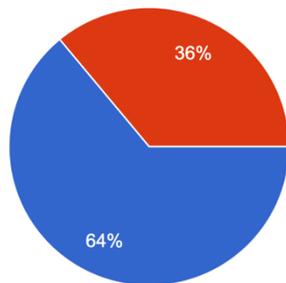
ご職業

25 件の回答



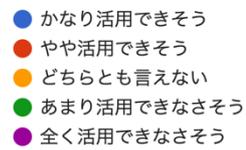
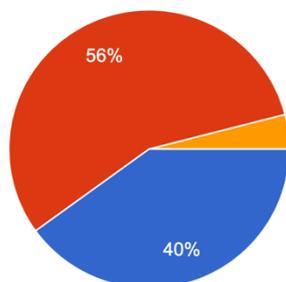
Q1. 本日のジェニファー先生のご講演内容について

25 件の回答



Q3 WMP!をあなたの実践に活用できそうですか

25 件の回答



本日の講義についてご感想をお聞かせください。(自由記述)

- 乳幼児期の支援は、経験値での養育方法や支援に頼ることがあるが、プログラムの中身は、乳幼児期を支援する上でとても勉強になる。
- アタッチメント理論に基づく子どものニーズに対応する手法として参考になった。遊びに着目することで焦点化しやすくなった。
- 育児困難感を抱える親支援として、地域保健活動の中でも取り入れることができる。
- 言語聴覚士としても WMP は普段の実践と大きく重なる部分があった。
- 内容は興味深く、実践に活かせる場面がある。
- WMP には対象となる年齢の上限がある事を知らなかったが、子育て普段の生活の中で生かしていけたらと思います。
- ジェニファー先生から直接お話を伺えたことは、貴重な経験となり、質疑応答も参考になった。
- 付け焼き刃的に講習で勉強することも多いが、WMP で子供にきちんと向き合うこと、5分でも10分でもというところが、実践している人の言葉だと受け止めた。子供との関わりを関係者、専門家に観てもらい、コメントをもらう点が良い。臨床に役立つと思った。
- 乳児院や里親のもとにいる子どもがどのような影響を受けているか、それを補うために何ができるのか、ヒントをえることができた。具体的に映像で見てみたくなった。子ども主導の遊びの大切さについてはジェニファー先生の説明がとてもわかりやすく、取り入れていこうと思った。
- すぐ、現場での関わりに活かせるような内容でしたので、さらに理解を深めて学びを子どもたちに返していきたい。
- 国や文化が違えど養育についての要諦は同じであると改めて感じた。
- PCIT と今回のプレイが似ていると感じたが、違いも受け入れながら今後の養育に生かしていきたい。
- 実際事例を交えた話で、かなり自由に幅広く使えるのではと感じた。効果の捉え方も、母子の関係や児の発達、養育者の自己効力感や孤独感の減少など、色々あり得ることが具体的にイメージとして持てた。
- 乳幼児観察や分析的なセラピーのエッセンスを残しつつも、家庭だけでなく保育園や児童養護施設など、多様な領域で導入できる取り組みだと感じた。
- 日本と英国で里親委託は異なるが、子どもが抱える課題、ニーズは変わらないため里親支援で知識や支援方法として身につけておくことは有効だと思った。
- イギリスでの実践例を聞いてよかった。
- 直接お話を聞くことができ、資料と合わせ理解を深めることができた。質疑の際、英国の動向も知ることができ大変勉強になった。

- 今回の講義を聞き、乳幼児観察の観察スタイルが、こんなにも活用できるのかと希望を持つことができた。
- たくさんの事例を交えての話で、WMP の考え方から実践による里親子の変化まで、シンプルで分かりやすく理解を深めることができた。自分の地域でも実践につなげていきたい。
- 理解を深めるためにはよく観察しながらかわり、かかわっている状況を客観的に捉えてくれる第三者と話し合うことで理解がより深まるというのは、対人関係の仕事全体に共通するような気がした。Watch Me Play!も実践や考え方を日々の業務にも活かしていきたいと思った。
- 事例とともに話があり、イメージしやすく理解が深まった。
- 子どもと関わる全ての人に身に付けてほしいプログラムであった。もっと子どもを注目しよう、知ろう、そして大人同士が語ろう、を日々保育の現場で実践したい。

上記の結果から、講演の内容については全員が満足と回答し、実践に活用できるという手応えを得たものが多かったことがわかった。また、自由記述のアンケートからは、それぞれの専門の立場からWatch Me Play!についての今後の支援への利用の可能性などについての肯定的な意見が述べられたことがわかった。

ただ今回実施した講演内容は講師からの講義がメインとなり、質疑応答の時間が十分にとれなかったため、今後さらにWatch Me Play!プログラムの理解の促進のためには、双方向の意見交換が可能な定期的な研修会なども必要であることが考えられた。保育や医療などそれぞれの専門性に合わせたWatch Me Play!の活用や、英国で行っているような研修会や継続したスーパービジョンの提供などを行うことで、Watch Me Play!を行う専門家を養成する場所を作っていくことも重要であると考えられた。

(3)プログラムの評価の検討

プログラムによる乳幼児の発達の変化を捉えていくための、子どもへの侵襲性の低い生物学的指標としてアイトラッキングを使用するための課題の検討を昨年度に引き続きおこなった。特にWatch me Play!プログラムでは、遊びを通じて養育者と子どもの関係性の変化などが起こりやすいことから、他者との相互交流における社会的認知能力に注目した課題を設定したパイロット調査の分析を行った。

(成果については、「社会的養護のもとで育つ乳幼児の社会的認知発達—アイトラッキングを用いた探索的研究」乳幼児医学・心理学研究 32(1) 63-72 2023年9月としてまとめられている。)

Watch Me Play!プログラムを含む乳幼児里親支援プログラムについて、研究への問い合わせのあった児童養護施設、フォススタリング機関、児童相談所などにむけて、個別に説明会を行った。Watch Me Play!プログラムのマニュアルを配布し、希望がある場合はZOOM等を使用した説明を行い、同時に研究協力を募った。今年度は、児童相談所の里親担当、

児童養護施設、フォスタリング機関、個別の専門家などからの問い合わせを受けた。

資料 1 講演会資料

2023/11/9

| | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>社会的養護のもとにいる乳幼児の ニーズの理解と対応 : Watch Me Play !</p> <p>ジェニファー・ウェイクリン博士 早稲田大学 (東京) 2023年11月</p> | <p>講義の構成</p> <ol style="list-style-type: none">1. 社会的養護のもとにいる乳幼児のニーズ理解2. 社会的養護のもとにいる乳幼児ニーズへの対応3. Watch Me Play とは !4. 「Watch Me Play !」の事例5. 英国におけるWatch Me Play ! の実践と研究 |
| <p>1 社会的養護のもとにいる 乳幼児のニーズ理解</p> | <p>エイミー：逆境</p> <ul style="list-style-type: none">・胎内でヘロイン、暴力、母親のストレスにさらされる・早産・出産後のヘロインからの離脱症状・入院中の多くの異なる看護師によるケア・暴力への暴露、母親のメンタルヘルスの問題、ネグレクト。・生後2ヶ月での新しい環境への移動・里親へのアタッチメントを促進しなかったシステム・頻繁な2時間の車移動・親との面会の中身の不安定さ |

1

2023/11/9

| | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>エイミーのニーズ</p> <ul style="list-style-type: none">・危険からの保護・良好な身体的ケア・知られ、理解されること・関係の一貫性・抱えることとコンテイン（心理的包容）・アタッチメント | <p>早期のアタッチメント関係の重要性</p> <p>人生早期におけるアタッチメント関係は、その後の人との関係性を育む基礎となる</p> |
| <p>乳幼児の早期の防衛</p> <ul style="list-style-type: none">・回避・フリーズ（凍りつき）・戦う・感情の逆転 <p>説得力のある見せかけの状況： “子どもたちは大丈夫でしたよ” 有害レベルのストレスホルモン</p> | <p>乳幼児における恐怖、痛み、苦痛のサイン</p> <ul style="list-style-type: none">・固まった、変化しない表情・長時間じっとして、引きこもり、黙ったまま でいる・筋肉のこわばりや硬直・脈拍または、心拍数が速い・浅い呼吸・長時間の泣きや叫び・ケアしてくれる大人から目をそらす・全く知らない人に対して大きく笑う、じっと 見つめる・非常に長い時間、眠り続ける |

2

幼児の防衛行動

- 全く知らない人に抱っこしたり、抱き上げてもらうために近づく
- 絶えず動いている
- 甲高い叫び声や笑い声が長時間続く
- 周囲の大人の動きを注意深くスキャンし、観察する

9

早期の防衛が見られた場合の対応

- こうした行動は、赤ちゃんや幼児がネグレクトや虐待を受けている証拠ではない
- これらは赤ちゃんや幼児が怯えたり、ストレスを感じているかもしれないことを示す非典型的な行動である
- 子どもの状況や養育についてより詳しく知るためには、注意深い観察とモニタリングが必要とされる

10

生後11ヶ月のスカールレット

- “小さな戦車”
- 硬く固まったものを強く握っている
- 沈痛な表情
- 沈黙
- 筋肉質で緊張している
- 死に物狂いで叫ぶ

11

4歳のダニエル

- 母親のメンタルヘルスの問題
- 頻繁な大家族内での移動と里親家庭への委託の繰り返し
- 重度の湿疹
- トイレトレーニングができていない
- 言語障害
- 多動と警戒心の強さ
- 調整されていない、極端な気分の変化
- 行動や行為の問題
- 学習の遅れ
- 8歳での退学処分

12

3

児童期後期および成人におけるリスク

- 精神的・身体的健康問題のリスクの増加
- 頻繁な委託解除（不調）と移動
- 施設養育
- 学校からの退学処分
- 資格や雇用機会の不足
- ポジティブな仲間関係や友人関係の欠如
- 犯罪組織による搾取
- 薬物・アルコール嗜癖
- 失業
- 刑務所

13

NICE（英国国立医療技術評価機構）による、社会的養護のもとにいる子どもの養育に関するガイダンス

- 前向きで純粋な（genuine）な人間関係
- 関係の一貫性
- 永続性
- 理解
- 子ども主導の遊びを含む、遊びの機会

14

2 社会的養護のもとにいる乳幼児のニーズへの対応

15

個別での注目の重要性

- 植物が太陽を必要とするのと同じように、赤ちゃんや幼い子どもたちは、彼らが大きく成長するために（大人の）注目を必要としている。
 - たとえ短い時間であっても、養育者の十分な注目を得ることは、子どもの気持ちの安定の助けになる。
- 個別の注目**
- 子どもは、自分が心に抱かれていると感じることができる。
 - 子どもが小さかった頃に得られなかった経験を補うことができる。
 - 子どもが安全を感じるのを助けることができる

16

4

一貫性があることの重要性

- ・「存在し続ける」こと
- ・関係性
- ・ルーティン
- ・活動
- ・モノ
- ・思い出
- ・過去から現在、そして未来へと目的を持って成長する感覚
- ・自己の感覚

17

持続することの重要性

- ・時間、忍耐強さ、注目
- ・表面的な見かけにとらわれず、子どもにとって何が起きているのかをより深く理解する
- ・子どもの信頼を得ること

持続性は、子どもを心に留め緊密に協力する大人のサポートにかかっている

18

子ども主導の遊びの重要性

- ・発達とウェルビーイングの基礎
- ・困難な人生のスタートを切った子どもたちには特に重要
- ・子どもの集中力を高め、自信を育む
- ・養育者が赤ちゃんや子どもをより身近に感じ、理解できるようにする
- ・さまざまなタイプの遊びの1つ

19

3 Watch Me Playとは！



20

5

1. Watch Me Play! を始める
2. 子ども主導の自由な遊びの中で、子どもに主導権をもたせる
3. 子どもの遊びを見る
4. 子どもと遊びについて話す

21

赤ちゃんが遊んでいる間、一緒にいるのに役立つ方法：

- ・表情：赤ちゃんの笑顔に微笑み返したり、喜んだり驚いたりする
- ・会話をする：赤ちゃんの音に似たような音で返答したり、「いろいろ話してくれるね！」と話しかけたりする
- ・興味を示す：赤ちゃんが見ているものを見て、それについて話す
- ・赤ちゃんがすることを説明する：「寝返りを打ったね」
- ・赤ちゃんが感じているかもしれないことを話す：「楽しんでいるね！」「うつつを寝れたいみたいだね！」
- ・声に出して不思議がる：「私の指に手を伸ばしているのか」「外を見たいのかな？」

22

子どもの遊びについて他の大人に相談する

- ・子どもの遊びは楽しいものだが、見ているのがつらいこともある
- ・赤ちゃんや子どもの遊びについて他の大人と話すことで、子どもの遊びに気づき、より楽しむことができる
- ・この子は何に興味があるのだろうか、今日は何で遊んだのだろうか、私が一歩引いて、子どもに何をさせるか選ばせるのは楽しい、あるいは難しい？
- ・子どもの遊びを見守ることが特に難しく感じられる場合、このような内省の共有と寄り添いは特に重要である

23

よくある質問

定期的にWatch me Playを行った場合、どのような結果が得られるのでしょうか。また、変化が見られるまでにどれくらいの時間がかかるのでしょうか？

この質問や他の質問に対する答えは、Watch Me Play! のウェブサイトに詳しくあります
www.watchmeplay.info

24

6

4. Watch Me Play! 事例

- ・エイミー
- ・カイルとベラ
- ・ノエミ
- ・ミゲル
- ・サミュエル

『里親養育における乳幼児の理解と支援』
第6章より：観察と注目

25

5 イギリスでのWatch Me Play!の実践

- ・社会的養護のもとにいる子どもたちへのサービス
- ・周産期サービス
- ・自閉症の子どもためのサービス（イスラエルでも）
- ・養子縁組家族のためのサービス（イタリアでも）
- ・ホームスタートUK

26

発達に遅れのある子どもを持つ家族 (n=15) を対象とした調査

Westlakeら（準備中）

養育者にとってのメリット

- ・子どもにより注目を向ける
- ・子どもにより調律し反応する
- ・よりリラックスし、希望に満ちている
- ・子どもとのより良い関係性
- ・子育ての満足度
- ・親の有能感、
- ・親のストレスの軽減

27

Westlakeらによる調査（準備中）

子どもたちへの恩恵－発達面

- ・人間関係
- ・アイコンタクト
- ・話すこと、聞くこと、コミュニケーション
- ・注意力
- ・自信
- ・自己意識

28

7

難しい壁

- ・時間を見つけること
- ・どのように子どもといるのかについて、異なる期待を抱いている
- ・子ども主導の遊びをさせること

何が役に立ったのか？

オンライン・セッション
実践者との協力関係
明確なガイダンスとフィードバック
時間に関する柔軟性
子どもや自分自身の変化を知ること

29

実践者に共通する難しさ

養育者への明確で直接的なガイダンスと
フィードバック

何が役に立ったのか？

最初にWMPでの遊びに関するさまざまな考
えを話し合う
子ども主導の遊びがもたらす恩恵を目の当
たりにして自信を得る

30

ありがとうございました！

コメントや質問をお待ちしていま
す。

www.watchmeplay.info

31

8

Watch
Me Play!

なぜ遊びが大切なのか

赤ちゃん、成長期にある子どもたち、大人、誰でも遊びを楽しむことができます。しかし、遊びはただ楽しいだけではありません。赤ちゃんが大人の顔を見たり、声に耳を傾けたりするのは、学びの始まりです。

私たちは遊びの中で以下のことを学びます。

探索

注目

集中

注意を向ける

誰かのまねをする

新しいことに挑戦する

同じことを何百回もする

自分の気持ちを知る

他の人を知る

自分に何ができるかを知る

交代する

(何かの) ふりをする

待つ

想像する

...

赤ちゃんとは波長を合わせ、リラックスして一緒に遊んで楽しむ事は、彼らが健康で安心して成長していくことを促進します。それは養育者にとっても大切なことです。一緒に遊ぶことは、共に成長することでもあるのです！

年齢の違い 遊びの種類の違い

大人の眉毛や舌の動きまねするのは、かなり小さな赤ちゃんでも楽しむことができる遊びです。

“いっぼんぼし”のようなくすぐり遊びは、成長中の赤ちゃんにとってはワクワクすることでしょう。ただ赤ちゃんが目をそらしたり、無表情になったりしたときは、次のやり取りの準備のために少し“休む時間”を持つのが良いかもしれません。

“いないいないばあ”や“かくれんぼ”は、人が来たり、いなくなったりすることについての感情を、子どもが扱っていくのに役立つ遊びです。すぐに子どもは、何かを隠したり、その時にあなたがどのような反応するのかを見て、ふざけたりするようになるでしょう。

赤ちゃんは、カバンや引き出しを空っぽにするのが好きです。これを一緒に楽しんで遊びにしてみましょう。

いくつかのおもちゃを見せて、子どもの発見に気づいてあげることで、子どもは好奇心を刺激され、安全な方法で世界を学ぶことができるようになるでしょう。

粘土、砂、絵の具、のりなどを使ってぐちゃぐちゃに遊んだりすることができる環境があると、子どもたちが新しいことに挑戦する自信を持つのに役立ちます。

お風呂の時間は、水がどのようなものか探求し、はじめての実験をするのに最適な時間です。

リズムカルな言葉や歌は、言葉の学習の最初の段階として役に立ちます。

人形や小さな動物のおもちゃでの遊びを通して、子どもは自分の感情を言葉にしたり、思いついたことを試したりすることができます。

Watch Me Play! のための7つのポイント

- 子どもの遊びを見守りましょう。そうすれば、いろいろなアイデアが得られます。
- 定期的に子どもと「特別な遊びの時間」を持ちましょう。子どもに主導権をもたせて、遊びに誘われるまで待っていきましょう。
- 子どもが想像力を発揮できるようにシンプルなおもちゃを使いましょう。
- テレビやタブレットなどのない、静かな場所を用意しましょう。
- 子どもが新しい活動に切り替えられるように、一緒に歌を歌って手伝いましょう。
- 子どもが描いた絵は、特別な場所やフォルダーに保管しましょう。
- 一緒に遊ぶことが難しいと感じたら、お子さんをよく知る他の人に話してみましょう。

早稲田大学大学院 総合研究機構
社会的養育研究所

2023年度
乳幼児里親養育プログラムの評価と開発に関する報告書

2024（令和6）年8月

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION